

## エミリ ニュ ジランド出身の元キリスト教徒

:

明: 宗教に して非常に 疑的だったキリスト教徒女性が、イスラ ムに しては即座に 心を示します。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: エミリ

日 4 Aug 2015

集日 24 Aug 2015

ニュ ジランド出身の私は、キリスト教徒として育てられましたが、 は特に宗教的でもありませんでした。少女 代の私は、 日曜学校に通い、祖母と教会に出席し、学校のカリキュラムの一 としてキリスト教のクラスも取りました。私はキリスト教に しては一度も 中になったことがなかったため、成 と共に教会から足が のきました。私が10代の、 い影 を与える友人のグル プがあり、私自身もいくつかの ちを犯したため、家族は2006年に私が15 のときにオ ストラリアへ引っ越すことを めました。

オ ストラリアの高校に通い出した私は 秀な成 を めるようになり、新しい人生を み始めていました。私は大学コ スに入れる成 を取ることができ、(大学から近い) 家を出て学生寮に入居しました。その 点までは、メディアを通して いたこと以外には全くイスラ ムについての知 はありませんでしたし、ムスリムに会ったこともありませんでした。

学生寮の入居者の一人はムスリムで、彼は私がそれまで会った中で最も心が い、 切で思いやりに ちた人物でした。私は彼と しくなるまでは彼の宗教については ねたりはしませんでした。 に ねてみるととても 味をそそられました。私は 日、クルア ンからアラビア の についてまで、彼にあらゆることを していました。私は彼の答えにいつも 味を持ち、 しんでいました。

私は通常、宗教については非常に 疑的なのですが、イスラ ムについては直ちに 得することができました。それから一年が ち、私は多くのムスリムたちと出会い、彼らは皆非常に 切かつ平和的な人々で、いつも私の 疑問に丁 々に答えてくれていました。私は19 を目前として自 的に研究をし、2009年のラマダ ンを 機に改宗を考えるようになりました。その前年のラマダ ンも数日 の断食を体 験したのですが、ムスリムでなければその断食は正しいものとして数えられないということを知りました。

19 の 誕生日の 、私はクルア ンが随所に言及されている「Don't Be Sad (悲しむなかれ)」という本を 読み、そこに 記されてあることが自分の人生の中の 体 験にもそぐうこと を 思い出 し、よりイスラ ムを学びたいと 感じるようになりました。その 、私は学生寮を出て一人暮らしを始めたのですが、孤独と 寂 感に 悩まされていました。私はいつも一人っぼっちだったのですが、「ビスマッラ (神の御名において)」と唱えることによってほっとし、安心感に包まれました。私はイスラ ムへの改宗を 意 図しましたが、私が改宗するのはムスリムの友人たちの ためだと彼らに思われなくなかったため、非常に 躊躇 していました。

また、19 だった自分にとってイスラ ムがいかに 正しいものになるかも未知数だったことも私を 躊躇 させました。私は自分の友人たちも含め、人がイスラ ムについて殆ど知らなかったこともとても心配でした。しかしある夜、私はサウジアラビアにいる 友人と 会 いました。そこで私はムスリムになっていてヒジャ ブを着けており、そのヒジャ ブは人々の目前で地面に落ちてしまったものの、 一人として私に何もいいませんでした。目を 擦 りますと、これが私にとってイスラ ムは容易なものとなること のしるしなのだと感じました。その 翌 日の数 日に渡って色々なことが起きましたが、それらすべてがアッラ によるしるしであることを 信 じました。

私はislamreligion.comのチャット室で、オペレ タ のZiaとSamyに心配事を 相談 したところ、彼らはなぜ待つのかと 聞いていただきました。明日何が起きるのかは も分からないのですよと言われました。それはもっともだと 得 したので、直ちにイスラ ムに改宗しよう と思いました。

私は以前に私の に答えてくれた友人に改宗の事 を告げることがとても不安でした。彼がどう思うか分かりませんでした。しかし彼はとても喜び、私の手助けとなることを望み、翌日には礼 の方角を知ることでできるコンパスを り物としてくれました。私はシャハ ダを学び、その 、彼は私の改宗を手 ってくれました。その 、私は嬉しさのあまり泣いてしまった程です。それは私の人生の中でも最も幸福に ちた瞬 で、友人が私を助けてくれたことがとても嬉しかったのです。

私は依然として、友人の一部には改宗の事 を告げていません。私は正しい が来るのを待っており、勉 し けています。私はムスリムとしての新たな人生を しています。そのうち本格的にイスラ ムについて勉 すること、そして次のラマダ ン月が来るのがとても待ち しいです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2693>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。